

戦友

真下飛泉(ましもひせん)
作詞・三善和氣作曲

1 / 4

□□□■

1

ここはお国を何百里

離れて遠き満洲(まんしゅう)の

赤い夕日に照らされて

友は野末(のずえ)の石の下

2

思えばかなし昨日(きのう)まで

真先(まさき)かけて突進し

敵を散々(さんざん)懲(こ)らしたる

勇士はここに眠れるか

3

ああ戦(たたか)いの最中(さいちゅう)に

隣りに居(お)ったこの友の

俄(にわか)にはたと倒れしを

我はおもわず駈(かけ)寄(よ)って

4

軍律(ぐんりつ)きびしい中(な)なれど

これが見捨てて置(お)きりようか

「しっかりせよ」と抱(か)き起(た)し

仮(かり)繃(は)帯(たい)からほうたいも弾丸(たま)の匣(は)

戦友

真下飛泉(ましもひせん)
作詞・三善和氣作曲



5 折(は)から起(た)る突貫(とっ)かん(に)
友(は)はよ(う)うよ(う)顔(あ)げ(て)
「お(お)国(くに)の為(ため)だ(か)ま(わ)ず(に)
後(お)く(れ)て(く)れ(な)」と目(め)に涙(なみだ)

6 あ(と)に心(こゝろ)は残(のこ)れ(ど)も
残(のこ)し(ち)や(な)らぬ(こ)の体(からだ)
「そ(れ)れ(じ)や(行)く(よ)と別(わか)れた(が)
永(なが)の別(わか)れ(とな)った(の)か

7 戦(たた)か(い)す(んで)日(ひ)が暮(く)れて
さ(が)し(に)も(ど)る心(こゝろ)で(は)
ど(う)ぞ(生)きて(居)て(く)れ(よ)
も(の)な(と)言(え)と願(ね)ご(う)た(に)

8 空(む)な(しく)冷(や)えて魂(たま)しい(は)
故郷(こきやう)へ帰(か)った(ポ)ケ(ッ)ト(に)
時(じ)計(けい)ば(か)り(が)コ(チ)コ(チ)と
動(う)いて(居)る(の)も情(なさ)け(な)や

戦友

真下飛泉(ましもひせん)
作詞・三善和氣作曲



9 思えば去年船出して
お国が見えずなつた時
玄海灘(げんかい)で手を握
り名を名乗ったが始めにて

10 それより後(のち)は一本の
煙草(たばこ)も一人わけてのみ
ついた手紙も見せ合(お)うて
身の上ばなしくりかえし

11 肩を抱いては口ぐせに
どうせ命(いのち)はないものよ
死んだら骨(こつこ)を頼むぞと
言いかかわしたる一人仲(なか)

戦友

真下飛泉(ましもひせん)
作詞・三善和氣作曲

4 / 4



12 思ひもよらず我一人
不思い議に命ながらえて
赤い夕日の満洲に
友の塚穴うかあな掘るうとは

13 くしまなく晴れた月今宵
心のしみじみ筆とつて
友の最期(さいご)をこまごまと
親御(おやご)へ送るこの手紙

14 筆の運びはつたないが
行燈(あんどう)のかげで親達の
読まるおとすおもいやり
思わずおとす一雫(ひとしずく)

End